



2026 年 10 月 8 日
商 工 中 金

米 SOZO と連携し、中小・中堅企業とシリコンバレーの先端技術を接続 ～LP 出資と連携スキームの構築を通じて、先端技術・人財・事業機会との接点を創出～

株式会社商工組合中央金庫（本社：東京都中央区、代表取締役社長：関根 正裕、以下「商工中金」）は、米国シリコンバレーを拠点とするベンチャーキャピタル Sozo Ventures（本社：米国カリフォルニア州、以下「SOZO」）が運営するファンド「Sozo Ventures IV, L.P.（以下「4号ファンド」）への2,000万米ドルのLP出資を行いました。あわせて、SOZOとの連携を開始し、中小・中堅企業とシリコンバレーの先端技術や人財、事業機会をつなぐ取組みを進めます。

商工中金は、全国12万社の取引先ネットワークを活用し、SOZOが有するスタートアップ、投資家、研究機関等とのネットワークと取引先企業をつなぐことで、中小・中堅企業の競争力強化や新たな事業機会の創出を支援してまいります。

■本取組みの背景

人口減少や人手不足、技術革新の進展など、日本の中小・中堅企業を取り巻く環境は大きく変化しています。持続的な成長には、AIをはじめとする先端技術の活用や新たな事業機会の獲得が不可欠です。また、製造業を中心に国際競争が激しさを増すなか、付加価値向上や生産性向上への対応も求められています。

なかでも、人手不足への対応や生産現場の高度化に向けては、フィジカルAIなど新技術の活用が広がりつつあります。一方で、多くの中小・中堅企業にとって、海外スタートアップやシリコンバレーのイノベーションエコシステムとの接点は依然として限られています。

SOZOは、日本とシリコンバレーをつなぐベンチャーキャピタルとして、スタートアップ投資や事業連携支援の実績を有しています。商工中金はSOZOとの連携を通じて、取引先企業の技術導入、新事業創出、海外事業展開等を支援してまいります。

■LP出資および連携の概要

商工中金は、SOZOが運営する4号ファンドへ2,000万米ドルを出資するとともに、「①人財育成」「②ビジネス連携」「③資本業務提携」の3領域で連携を図ります。シリコンバレーでの研修・交流機会の提供、先端技術と取引先企業のマッチング、実証実験（PoC）や共同開発、クロスボーダー支援などを通じて、中小・中堅企業の競争力強化を支援します。

商工中金は、全国の中小・中堅企業の成長を支援する金融機関として、融資に加え、人財・技術・事業機会の提供を通じて、お客さまの企業価値向上を支援してまいります。

今後はSOZOとの連携を通じて、シリコンバレーで生まれる先端技術や新たなビジネスモデルと取引先企業との接点を創出し、お客さまの競争力強化や新規事業創出を支援してまいります。また、こうした取組みを通じて、商工中金が目指す「中小企業経済圏」の確立・活性化につなげてまいります。